

学校でひらく舞台芸術教室

「身体表現の可能性」を追求

演出家・小野寺修二氏に聞く



舞台芸術のアーティストを学校に派遣して、子どもたちと一緒に創造活動を行い、子どもたちの表現力と創造性を育てるための機会となるよう「学校でひらく舞台芸術教室」も4年目を迎えました。今年度は小野寺修二氏(カンパニーデラシネラ主宰)を講師に迎え、岡山市立朝日小学校と岡山市立竹枝小学校でワークショップを行いました。10月には各小学校と、旧内山下小学校で「ロミオとジュリエット」を上演します。演劇とダンスの世界を横断的に活躍している注目のアーティスト・小野寺氏にお話を伺いました。(財団・和田)

瀬戸内国際芸術祭2013の「人魚姫」に演出・出演で参加した感想を。

東京で僕らがよく見かけられるような若者達から地元のおじいちゃんおばあちゃんまで、いろいろな人が船に乗っていたのが魅力的だった。島での生活は、時間の概念を揺さぶられる感覚があった。それは船の都合と関係があって、夕方からはもうおいそれと移動はできず、結果夜寝て朝起きるという生活になる。24時間開いているお店に開かれた生活は便利なようで、逆に自然と共に生きている豊かさを思った。僕らの企画は毎日違う島を巡って3回公演、夕方島を離れて次また違う島へという行程だったので、精神的にも肉体的にも挑戦だった。島の人たちが暖かく迎えてくれたことが嬉しかった。

子どもたちとのワークショップを行うときに心がけていることは。

まずは興味を持ってもらうこと、身近に感じてもらうことが必要だと思う。自分自身が面白そうだと感じ自発的に動けると、いろいろなこととして全てのことが早いと感じている。特に「やらなくてはいけないこと」ではないので、自分がチャレンジしてみる、自分が手を上げる、自分が相手に働きかける、そういった、受け身ではない姿勢が大切だと思う。

毎回ワークショップを終えた後は、いろいろ感じる事が多く、もしかしたら子どもたちのためではなく、自分の糧になっているのかもしれない。

子どもは比較的、文脈じゃなくて感覚で物事をとらえている。そこに物語を見ていないので、事情だけで食いついたり飽きたり、思ったことをすぐ声に出す。あれ死んでんのかとか、そういう反応がすごく楽しい。いわゆる「お尻だして笑う」みたいなことが子どもは好きだけどそれだけじゃなくて、「動きのリズム」に対しての生理的な反応が、大人より子どもの方がいいときがある。

「ロミオとジュリエット」を題材に選んだ理由は。

最近古典のすばらしさを意識しています。本で読むシェイクスピアと違う・・・身体や視覚的なもので出会いが渡せたらと思う「ロミオとジュリエット」を選んだ。「ああロミオ、ロミオ! どうして貴方はロミオなの」という台詞や、キャピレット家モンタギュー家という単語と同時に、そこに流れる関係、感情をその場で上げたい。古典は、何百年も上演され続けてきているもので、ある種の普遍性をはらんでおり、その役割が果たせる素材だ。

意外にそういった名作は、大人でも断片しか知らなかったりする。いずれ違う形で、もう1回読んでみようかなと思ってもらえると嬉しい。

シェイクスピアは、巧みなセリフを聞かせる表現なので、その面白さを視覚で伝えられたら、違う形のシェイクスピアが経験できるのではと模索しているところ。そういう意味では今回は、ダンサーや役者の他にいろんな仕掛けもあり、我々自身の身体表現の可能性を試みる公演でもある。

場面のどこか1シーン、断片でも持ち帰ってもらえたら嬉しい。



朝日小と竹枝小、旧内山下小で「ロミオとジュリエット」



岡山市立朝日小学校 校長 西 弘子さん

小野寺さんのパントマイムに、65名の子ども達は、一瞬にして心をつかまれたようでした。子ども達の集中力を切らせることなく次々と課題を与え、テンポよく90分間のワークショップを行う小野寺さんの指導は、私たち教師にとっても勉強になりました。子ども達が生き生きと身体で表現し、積極的に発表する姿が印象的でした。本物のパントマイムに触れ、すばらしい感動の時間を共に過ごすことができました。



岡山市立竹枝小学校 保護者 大塚 愛さん

先日竹枝小学校にてパントマイムの授業があり、見学をさせていただきました。東京から来られた小野寺さんと藤田さんの2人の講師の方が、体を使ったいろんなワークをしてくださいました。講師の方のうまい動き方に触発されて、子ども達も椅子を使ったワーク、2人組で体を支えるワークなど、楽しそうに動いていました。昨年と一昨年は北村茂美さんの指導で、創作ダンスを経験させてもらい、犬島での発表会は感動的でした。一流の表現をされている方の授業は、子ども達に「真剣さ」と「本物の面白さ」を与えてくれる貴重な機会だと思いました。



小野寺修二 ——— Shuji Onodera

演出家。カンパニーデラシネラ主宰。日本マイム研究所にてマイムを学ぶ。95年～06年、パフォーマンスシアター水と油にて活動。その後文化庁新進芸術家海外留学制度研修員として1年間フランスに滞在。帰国後、カンパニーデラシネラを立ち上げる。作品はマイムの動きをベースに台詞を取り入れた独自の演出で、世代を超えた観客層の注目を集めている。主な作品として、「あらかじめ」(11年青山円形劇場)、「オイディプス」(11年静岡芸術劇場)、「カラマゾフの兄弟」(12年新国立劇場)等。また、ダンストリエナーレトーキョー 2012で「ロミオとジュリエット」、瀬戸内国際芸術祭2013で屋外劇「人魚姫」を発表するなど、劇場内にとどまらないパフォーマンスにも積極的に取り組んでいる。近年は、音楽劇や演劇などで振付の担当もしている。「叔母との旅」(松村武演出)ステージング、「ハーバー・リーガン」(演出長塚圭史)の振付で、第18回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞受賞。

「ロミオとジュリエット」新演出で岡山上演—悲劇と廃校の美しい関係。

日時 | 2014年10月4日(土)・5日(日) 両日開演 17:15

会場 | 旧内山下小学校(岡山市北区)

料金 | 全席自由

一般前売 3,000円 一般当日 3,500円 学生前売 1,500円 学生当日 1,800円
高校生以下 1,000円(前売当日共通)

お問い合わせ・お申し込み | NPO法人アートファーム

Tel 086-233-5175 E-mail info@artfarm.or.jp

http://www.artfarm.or.jp